

令和元年度 第3回大阪市建設事業評価（事業再評価）調書修正箇所対比（大阪都市計画事業淡路駅周辺地区土地区画整理事業）

		修正前	修正後	
3 事業の必要性の視点	①事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市整備局運営方針において、「継続中の公共団体施行の事業については、厳格に進捗管理を行うとともに、法的措置の活用や事業内容の公表など、事業が遅延しないよう対策を講じながら着実な進捗を図る。」としており、本事業の優先度は高い。</li> <li>現在、地区東エリアのまちは概ね完成しており、平成30年度にJRおおさか東線が開業し令和元年度地区東エリアの都市計画道路淡路駅前線の完成を予定している。</li> <li>また、関連事業である「阪急電鉄京都線・千里線連続立体交差事業」は、令和6年度高架切替、令和9年度事業完了を予定して進められており、当事業としても、連続立体交差事業の施行期間と整合を図る必要から、令和元年7月5日付け、事業計画（第5回変更）の公告を行い、令和9年度換地処分へ事業期間の見直しを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市整備局運営方針において、「継続中の公共団体施行の<b>土地区画整理</b>事業については、厳格に進捗管理を行うとともに、法的措置の活用や事業内容の公表など、事業が遅延しないよう対策を講じながら着実な進捗を図る。」としており、本事業の優先度は高い。</li> <li>現在、地区東エリアのまちは概ね完成しており、平成30年度にJRおおさか東線が開業し令和元年度地区東エリアの都市計画道路淡路駅前線の完成を予定している。</li> <li>また、関連事業である「阪急電鉄京都線・千里線連続立体交差事業」は、令和6年度高架切替、令和9年度事業完了を予定して進められており、当事業としても、連続立体交差事業の施行期間と整合を図る必要から、令和元年7月5日付け、事業計画（第5回変更）の公告を行い、令和9年度換地処分へ事業期間の見直しを行った。</li> </ul>	
	③費用便益分析	<p>[算出方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業における費用便益分析マニュアル（案）：国土交通省</li> <li>費用便益分析マニュアル：国土交通省</li> </ul> <p>[分析結果]</p> <p>土地区画整理事業費用便益比 B/C=1. 10（総便益B：573億円、総費用C：522億円）、残事業B/C=6. 45</p> <p>街路事業費用便益比 B/C=1. 08（総便益B：337億円、総費用C：313億円）、残事業B/C=45. 11</p>	<p>[算出方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業における費用便益分析マニュアル（案）<u>（平成21年7月 国土交通省 都市・地域整備局）</u></li> <li>費用便益分析マニュアル<u>（平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局）</u></li> </ul> <p>[分析結果]</p> <p>土地区画整理事業費用便益比 B/C=1. 10（総便益B：573億円、総費用C：522億円）、残事業B/C=6. 45</p> <p>街路事業費用便益比 B/C=1. 08（総便益B：337億円、総費用C：313億円）、残事業B/C=45. 11</p>	
	④定性的効果の具体的な内容	<p>[効果項目]</p> <p>&lt;当事業の効果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○狭隘な連続性のない道路の解消、宅地の整形化、公共施設の整備による災害に強いまちの形成</li> <li>○土地の高度利用の促進</li> <li>○商業・業務活動の活性化の推進</li> <li>○関連事業である阪急の連立化との一体整備による都市交通の円滑化</li> </ul> <p>&lt;土地区画整理事業の一般的な効果&gt;</p> <p>①防災性の向上 ②生活環境の向上 ③生活利便性の向上 ④都市の骨格の形成 ⑤土地の有効利用 ⑥良好な宅地の供給 ⑦交通安全の確保 ⑧登記の整理・町区域の明確化など</p> <p>[受益者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施行地区内及び地区周辺の居住者、自動車交通の利用者</li> </ul>	<p>[効果項目]</p> <p>&lt;当事業の効果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○狭隘な連続性のない道路の解消、宅地の整形化、公共施設の整備による災害に強いまちの形成</li> <li>○土地の高度利用の促進</li> <li>○<u>鉄道ネットワークの拠点性が高まる効果を受け止めることによる商業・業務活動の活性化の推進</u></li> <li>○関連事業である阪急の連立化との一体整備による都市交通の円滑化</li> </ul> <p>&lt;土地区画整理事業の一般的な効果&gt;</p> <p>①防災性の向上 ②生活環境の向上 ③生活利便性の向上 ④都市の骨格の形成 ⑤土地の有効利用 ⑥良好な宅地の供給 ⑦交通安全の確保 ⑧登記の整理・町区域の明確化など</p> <p>[受益者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施行地区内及び地区周辺の居住者、自動車交通の利用者</li> </ul>	
5 事業の優先度の視点の評価	<p>[重点化の考え方]</p> <p>都市整備局運営方針における取組として、「厳格に進捗管理を行うとともに、法的措置の活用や事業内容の公表など、事業が遅延しないよう対策を講じながら着実な進捗を図る。」としており、「事業が長期化しないように着実に実施すること」としているため事業の優先度は高い。</p> <p>[事業が遅れることによる影響等]</p> <p>新鉄道敷西エリアの整備については連立事業による高架切替後、既存線路が撤去された後に工事を行うこととなる。しかし、建物移転および大部分の換地が面する新鉄道敷の東側の道路は概ね完成しているため大きな影響はない。</p>	評価	<p>[重点化の考え方]</p> <p>都市整備局運営方針において、「<u>継続中の公共団体施行の土地区画整理事業については、</u>厳格に進捗管理を行うとともに、法的措置の活用や事業内容の公表など、事業が遅延しないよう対策を講じながら着実な進捗を図る。」としており、「事業が長期化しないように着実に実施すること」としているため事業の優先度は高い。</p> <p>[事業が遅れることによる影響等]</p> <p>新鉄道敷西エリアの整備については連立事業による高架切替後、既存線路が撤去された後に工事を行うこととなる。しかし、建物移転および大部分の換地が面する新鉄道敷の東側の道路は概ね完成しているため大きな影響はない。</p>	評価
		A	A	